

白柳秀湖 しらなぎ 小説家、評論家。明治十七年一月七日静岡縣生れ、

昭和二十五年十一月九日歿（八十四歳）。本名武司。筆名折井生、

「火鞭」記者、白黒里人、秀湖生等。明治四十年早稲田大學卒。在學

中山口孤劍、中里介山等と火鞭會を興し、雜誌「火鞭」發刊。隆文館

等、勤務の傍ら小説、評論を發表、更に社會講談、獨特の史論に及ぶ。

論著書、松岡悟遺稿、尾形村遺稿（山口紫明共編、明治二十八年七月

一日自刊）、「離愁」（再版、明治四十一年六月十五日隆文館）、「親

分子分・英雄篇」（明治四十五年二月）、「二日東京堂書房）、「大日

本閣内史」（大正二年四月一日東京堂書房）、「社會講談選集」（大

正十四年六月二十五日大鏡閣）、「盛夏の劍」（大正十五年五月十四

日叢文閣）、「古代日本の奴隸制度」

（昭和二年七月）、二十五年南宮書院「無

産者自由大學」附録「無産者大學パン

フレット」（「西園寺公望傳」（昭

和四年六月十五日日本評論社）、「日

本經濟革命史」（昭和四年十一月十日、再刊改題「日本經濟沿革史」

十七年六月五日千倉書房）、「訂親分子分」（英雄編、昭和四年十一

月十五日、俠客編、五年二月十五日、浪人編、四月十五日千倉書房）、

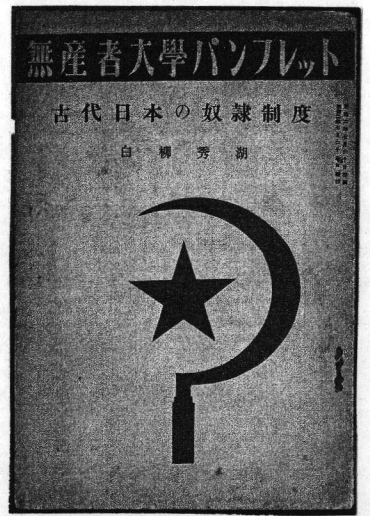
「陰謀騒擾實話」（昭和五年二月十八日平九社「明治

社會展開の動力」（昭和五年十一月一日千倉書房）、「食慾と愛慾」

（昭和六年一月一日千倉書房）、「住友物語」（昭和六年二月十日、日

千倉書房）、「岩崎彌太郎傳」（昭和七年二月）、「二日改選社」講人

傳全集）、「現代財閥源流史」（昭和七年五月）、「二日千倉書房」、



- 『親分子分・政黨編』(昭和七年九月十七日千倉書房)、  
『左傾兒とその父』(昭和八年六月十一日千倉書房)、  
『日本女性史話』(昭和九年一月十九日千倉書房)、  
『日本民族論』(昭和九年九月二十日、再刊・十七年六月十七日千倉書房)、  
『自然と勞作』(昭和九年十一月十五日二重書房)、  
『民族日本歴史』(建國編・昭和十年四月十六日、王朝篇・六月二十一日、封建篇・八月十七日千倉書房)、  
『明治大正國民史』(明治初編・昭和十一年六月二十一日、明治中編・昭和十二年一月二十日千倉書房)、  
『世界諸民族經濟戰役話』(昭和十二年十一月二十日岩波書店「岩波新書」)、  
『日本民族と天然』(昭和十三年十一月十八日千倉書房)、  
『日文交渉史話』(昭和十四年四月二十九日實業之日本社)、  
『定版維新革命前夜物語』(昭和十五年一月三日、再刊『維新革命前夜物語』・二十一年九月十日千倉書房)、  
『東洋民族論』(昭和十五年五月十八日千倉書房)、  
『定版明治大正國民史』(王政復古編・昭和十五年五月二十一日、維新改革編・二十七日、憲政樹立編・二十八日、大陸進出編、世界雄飛編・二十九日千倉書房)、  
『中上川彦次郎傳』(昭和十五年六月二十一日岩波書店)、  
『近衛景及の近衛公』(昭和十六年八月十五日國民新聞社出版部)、  
『岩崎彌太郎』(特製・昭和十七年十月一日潮文閣)、  
『大久保利通』(昭和十八年十一月二十日潮文閣「新偉人傳全集」)、  
『日本民族文化史考』(昭和二十二年十一月五日文理書院)、  
『支配者・親分子分日本史』(加田哲一編、昭和二十一年五月十五日實業之日本社)等。